

令和3年度第2回平塚市下水道運営審議会 会議記録

(確認者 西田会長、永吉会長職務代理者)

日時 令和3年11月1日(月) 14:00～15:00  
場所 平塚市役所本館3階302会議室

出席委員 9人  
西田会長、永吉会長職務代理者、江口委員、大伴委員、小宮委員、  
露木委員、石黒委員、相原委員、甲斐委員

事務局 8人  
土木部 武井部長  
下水道経営課 田村課長、清田課長代理、石橋課長代理、齋藤課長代理、  
塩坂主査  
下水道整備課 勝俣課長、谷田部課長代理、高橋課長代理、三宅担当長

傍聴者 0人

- 1 議題  
(1) 平塚市新下水道ビジョン(素案の案)について
- 2 その他

配布資料

- (1) 令和3年度第2回平塚市下水道運営審議会次第
- (2) 平塚市新下水道ビジョン(素案の案)
- (3) 前回審議会からの変更点

○会議の公開について事務局から説明

これより会長による議事進行

会長

それでは、次第に従いまして議題に入らせていただきます。(1)「平塚市新下水道ビジョン(素案の案)について」、事務局から説明をお願いいたします。

- (1)「平塚市新下水道ビジョン(素案の案)について」

事務局から平塚市新下水道ビジョン(素案の案)について説明

会長

ただいまの事務局からの説明について、何かご質問がありましたら頂戴できれば

と思います。恐れ入りますが、ここでは、新下水道ビジョン（素案の案）の内容及び形式等についてのご質問をお受けいたしまして、下水道事業一般については次第2でお受けしたいと思っておりますので、ご協力の方お願いいたします。それではご質問いただけますでしょうか。

#### 委員

ご説明いただきました前回審議会からの変更点を見ながら、1点だけ質問したいと思っております。進捗管理を推進体制に修正しておられるところですが、その理由をもう一度説明していただけますか。よろしくお願いいたします。

#### 事務局

この新下水道ビジョン自体で進捗管理を行うのではなくて、他の個別計画で進捗管理をしながら事業を推進していくという体制を取る形に見直しをしたということです。この新下水道ビジョンは理念・目標に向けてどのように進んでいく体制なのかを示すという形に変更させていただきました。

#### 委員

不明水のことですが、資料の現状と課題の中では、不明水への対応ということで詳細な調査を進めていますと書いてあります。一方、基本理念と基本方針では、平塚市としてはほとんど何もやっていなかったととれるのですが、前後で内容が合わないのではないのでしょうか。

平塚市の汚水処理費は、維持管理費で約16.7億円、減価償却費等で約10.3億円、計約27億円、使用料収入が約32.3億円、収支5.3億円です。この汚水処理費の中に不明水処理費も入っているのですか。所在がわからない不明水の処理も下水道料金に上乗せされているということですよ。私が集めた資料では、平均して収入の20%くらいと言われていたのですが、それだともすごい金額になります。それは周知してあげないと市民はわからないのではないのでしょうか。黒字と言ってもそれは使用料を取り過ぎていることにならないですか。他の自治体がどう処理しているのかはわかりませんが、基本的に水道を使った量に比例して下水道料金がかかることになっていて、不明水のことほどこにも書いていません。もう一つ、不明水対策は重要ですよとおきながら、相模川流域下水道の計画に則って進めると書かれており、自分たちでは計画を立てないと言っているように見えます。

#### 事務局

まず、不明水対策の計画についてですが、流域下水道と手を合わせてやっていくという意味合いになります。平塚市として何もやらないということではなく、相模川流域を使っている市町で下水道処理場を運営していますので、まずそこで一本の計画ができて、平塚市としてはそれに則った形で個別の対応を作っていくことになります。

#### 委員

この資料で、広域化・共同化の検討と書かれています。例えば家庭から出ている雨水管が壊れていたら、全部そこから雨水が地面に浸透して、それが不明水になり

ますよね。だけど、一般市民に庭を掘って調べてくださいとは言えませんよね。共同化とはそういう意味ではないということですか。

#### 事務局

基本的に平塚市では、下水道は分流式という形で、汚水は汚水、雨水は雨水と管を分けているところが多いです。不明水に関しては、汚水の中に侵入してきてしまうもののことを言いますので、原則論としては、雨水はあまり関係が無いです。ただ、平塚市が下水道事業を始めた頃は、合流式下水道というものもやっけていまして、雨水も汚水も最後一本の管に流れるように整備していたところもありますので、そういったところには影響が無いとは言えないですね。

#### 委員

私が見た資料、ネットで調べてみた資料は古いのかもしれませんが、不明水は、そういうところから浸透した水、地下水、それから企業がアウトローでやっている水の流れ、これが三本柱ということですよ。企業が法を犯して流し込んでいる水は平塚市には無いということでしょうか。

#### 事務局

間違えて流してしまったということは、無いとは言い切れないですね。平塚市が不明水対策として、何をやってきたのかを少し説明させていただきたいのですが、もともとの新下水道ビジョンの前に、中期ビジョンが平成24年からスタートしていますが、その中で、十年間かけて不明水の対策を行うことを書かせていただいております。こちらを進めてきたところです。先ほど言っていた汚水管の中に、雨水が入ってしまう侵入水の対策として、例えばマンホール蓋に穴が空いているところにゴムの栓をして入ってこないようにする。あとは誤接、誤った接続という言い方をしますが、本来、雨水で流れてきたものは雨水管に流さなければいけないところを、間違えて汚水管に繋いでしまったものです。これを、大規模な工場や学校、そういった大きなところからまずは調査をして、年に数件ですが、立入検査をやらせていただいて、是正の勧告をするなどして進めております。ただ、こうしたことを積み重ねてきても、なかなか進まないのがこの不明水という根の深い課題ですので、引き続き、新下水道ビジョンでも、流域下水道と一体になって、平塚市としても考えていかなければいけない大きな課題としています。

#### 委員

私の家の管というか雨水路に、雨が降って浸透して、それが普通ならば1で済んでいたところが、2に増えるということがあれば、私自身の責任として直さなければいけないのですか。

#### 事務局

基本的には雨水の話なので、例えば雨どいなどから流れてきて、雨水管路に繋がるのですが、そこに侵入とか漏れたりということがあっても、地表にその水が溢れてしまったりとか、そういう実害がない限りそれほど問題はありません。雨水に関しては、使用料は発生がしておりません。溢れてしまったものが地表に出て、洪水みた

いになってしまうというのは問題ですけれども、基本的には地表から地下に浸透させていくというのが平塚市の基本的な姿勢でもありますので、浸透できているうちは問題ありません。

#### 委員

そうすると概念的には、平塚市の下水道処理費の中に、そういう不明水に対する費用は含まれていないということですか。

#### 事務局

それは違います。汚水管に流れ込んでしまう雨水というのは、汚水として処理場まで来てしまいます。合流式でも分流式でも、少なからず入ってきてしまうので、こちらに関しては減らしていかなければいけないのですが、この費用が実際使用料から使われてるというのも事実ですので、これは縮減していかなければいけない課題としています。

#### 委員

平塚市の指定工事店は95くらいあります。管に不明水が入る可能性はあるということなので、そこではヒューマンエラーが起きていることもありますよね。そうした工事業者に対して平塚市はどういう指導をしているのですか。

#### 事務局

指定工事店については、認定をする形ですが、その指定工事店の中には必ず責任技術者という者がおります。責任技術者は試験を受けて合格しなければなりません。それともう一つ、下水道の宅内排水設備設置の申請が来るのですが、その審査として、でき上がったものの現場確認を必ず行い、誤接していないかを見ています。誤接を確認した場合には、確実に直すよう指導しております。ただ、過去のものですかとか古いものについては、管の亀裂などから雨水が入る可能性もありますので、そういうものが一つひとつ重なって、不明水という形になっていることもあると思います。

#### 委員

なぜこういう質問をしたかと言うと、私の家のすぐ近くに6軒アパートを新築していて、当然、下水道に繋ぐ工事をしていたのですが、市の職員が来ている様子が全くありませんでした。

#### 事務局

検査には必ず行っています。完成を確認してシールを張っています。問題無いということになって初めて、下水道の料金等がかかってきますので、まず完成をさせるということなのです。

#### 委員

最後に、不明水について、この庁舎全体の使っている水道水量と排水量バランスというのはどうなっているのか教えてください。

#### 事務局

お話が下水道ビジョンの内容からずれておりますので、後ほどまとめてお答えいたします。

#### 委員

この冊子のことで、これがいずれは案が消されて、地域に配布するとか、公民館に置くとかすると思いますけれども、これはあくまで大人向けだと思います。平塚市の人口ビジョンからすると、そろそろ人口が減少してくるようになっていきます。経営戦略で、15年ぐらい先には赤字になる可能性があるということで、今の子供たちが成人になる頃は財政的に厳しくなるから、今のうちから体制を取ろうということだろうと思うのですけれども、理解者を増やすという意味では、子供バージョンのこの冊子をお作りになったらいかがでしょうかという提案です。

もう一つ、先ほどの委員の質問と重なるかもしれませんが、冊子の最後のページ、計画期間における見直しというところですが、既にある個別計画、これからできるかもしれない個別計画については、新下水道ビジョンが総括をしていくと書かれています。審議会にはあくまで報告ということですね。それをもう一度確認させてください。

#### 事務局

まず、新下水道ビジョンとしては、これ一本という形でやらせていただきたいと思っています。ただ、ご意見にあったように、若い世代にわかりやすくするというのは、非常に重要な点だと思います。これは広報において、もう少しかみ砕いた形に落とすというのも一つの手だと思っていますので、ご意見参考にしながら検討させていただきます。

審議会への報告というところの意味合いについて、ご説明させていただきます。前回ご説明させていただいた通り、この審議会にお諮りする内容といたしましては、主に下水道使用料や受益者負担金など、お金に関するところをメインにお願いをしておりますので、お諮りするものについてはそういったものというようにご理解をいただきたいと思っております。計画の進捗などについては、基本的には結果をご報告させていただいた上で、ご意見を頂戴して、次の施策に反映していくという形で対応できればという考え方でございますので、そのような形で今後ご協力いただければと考えております。

#### 委員

そもそもこの下水道ビジョンというのは何で必要なのかというのを、もう一度確認したいと思います。というのは、進捗管理という文言を外すわけですから、進捗状況というのは個別計画でまわしていけばいいということに落とし込んでるんだという理解をしたのですが、そうすると、どうしてわざわざビジョンを作らないといけないのかというのが、そもそもよく理解できてないところがありまして、このビジョンがある必然性というのは、何なのかというのをもう一度教えていただけま

すでしょうか。

#### 事務局

平成24年度に下水道中期ビジョンで、今まで無かった、下水道について計画的にいろいろ対策をしていきましょう、道筋をつけていましょうというものを作っています。この下水道中期ビジョンについては、よくある実施計画のように、目標数値があり、それを何年までにどれだけ達成します、中間でどれだけ達成できたかを見直して、新しい改定のものを作っていきましょう、こんな形で進めて参ったところです。ただ、ここに書いた期間中に、それぞれの課題、例えば災害対策や老朽化対策、ポンプ場の見直しなど、こうしたことをまとめた計画の中でやっていくのが難しくなったため、個別に計画を立てながら、実施をしていくという形に変わっており、最初に掲げた課題というのは、個別計画の抜き出しのような形になってしまっているのが現状でございます。もっと網羅しなければいけない課題はあるのですが、それは各個別計画でやっているの、それぞれ改善に向けてやっているものの、足並みを揃えるという意味では総括するものが無くなっている状態です。平塚市全体でいうところの総合計画のようなものが、下水道事業でも必要ではないかという議論の中で、今までの下水道中期ビジョンの実施計画のような形ではなく、それぞれの個別計画がしっかりと足並みを揃えられるようなビジョンを作って、基本方針に向かってやっていく体制を構築しましょうということで今回作っており、それが新下水道ビジョンの必要性ということになります。

#### 委員

そうすると、そのビジョンをちゃんと示すということに意味があるのだということだと思うので、わかりやすく理解するために聞くのですが、他市の下水道施策に比べて、平塚市の下水道ビジョンとは何ですかと聞かれたら、わかりやすく何と答えますか。

#### 事務局

もともと下水道として、中期ビジョンというのは初めて作った計画だったので。その時に個別の計画もこの中に組み込みましたし、理念であるとか、基本方針的なものも一緒に組み込みました。その結果、先ほど説明したように、この十年間まわして行く中で、個別の計画がそれぞれ独立していったような形になってしまいました。そこで今回、個別計画で進捗管理をするという形に落とし込んだときに、翻ってその理念、それから基本方針というところを謳う場所がなくなってしまったというところが、ビジョンが必要な一番の理由です。そのため、まずは将来展望を形で指し示すもの、先ほど言った基本理念と基本方針をきちんと掲げようとするのが新下水道ビジョンになります。委員から言われた、何をやるのかと言えば、基本理念としては、暮らしを支え、次世代につなげる下水道という形で書かせていただいた通りで、今ある下水道というものをきちんと子の世代、孫の世代まで、安定して繋いでいきましょう。これが掲げていくビジョンになります。

#### 委員

平塚には新幹線と東海道本線があり、鉄道沿いにアンダーパスがあります。アンダーパスというのは、必然的に水が溜まるようにできています。そういう所の近く

に住んでいる方は、交通インフラが阻害される恐れがありますよね。その点については、このビジョンでは集中豪雨の増加・激化、災害への備えというところに、そういう物理的構造のために被害が発生しているということで書かれているのですか。

#### 事務局

ご質問はビジョンというよりは、個別の計画の方で、浸水対策という意味でしたらそちらに書かせていただく内容です。ただ、アンダーパス一本というような意味ではなく全体でということになります。

#### 委員

鉄道事業が昔、強硬な力を発揮してこのアンダーパスを作ったわけです。国が作ったわけです。そのアンダーパスがあることで地域によって交通インフラの差ができていたのをもう少し認識してもいいのではないのでしょうか。例えば、公所には新幹線が通っており、アンダーパスがあります。そのため、河内は必ず浸水しています。何十年とそういうことが続いています。そういうことを我々はどうか考えるべきでしょうか。

#### 事務局

すみませんが、少し新下水道ビジョンの話とずれてしまっていると思いますので、次第2でもう一度お出しいただければと思います。

#### 会長

形式のところで何点か伺いたいと思います。まず表紙ですけれども、目次のところに、平塚市新下水道ビジョンの概要というような形で書かれているのですが、ここに、章番号などが無いようです。ローマ数字でもいいのですが、通常、何か目次を書くときには、章番号などが付いていると思うので、これがそのまま出るということであれば、付けていただきたいです。あと、これは委員の方にもお伺いしたいのですが、写真などは別として、文字の色について、視覚に障害がある人などは、もしかしたら青が見づらいという方もいらっしゃるかなと思います。その場合は、目次の文字の色に関しては黒などに修正する方が良いと思うのですがいかがでしょうか。

(異議なし)

よろしいですか。では、目次は誰もが読みやすい文字の色にしてもらえれば助かります。

それから4ページのところで、4番の経営環境の変化への対応、経営基盤の強化のところで、「現在は」という言葉が2ヶ所に入っており、令和2年度末時点という意味合いだと思うのですが、状況が変わったときに、違うのではないかと指摘が入ることはあまり望ましくないかなと思いますので、いつの時点では、ということを書き込んでいただいた方が正確かなと思います。

委員

「現在は」というのが経営戦略の期間ということですよ。

事務局

そうですね。ただ、取り組み状況などでは、時点を書いてしまった方が確かにいいのかなと思います。

委員

2つあるうち、「現在は経営の健全性が保たれていますが」の方は、長期的な話なのでいいかと思いますが、「現在の収支は黒字となっております」は、委員のおっしゃっているとおりだと思います。

会長

どこまで反映させるかはお任せします。あと、3ページの現況の第2段落の「全市人口に対する下水道普及率は、98.7%であり」の「、」は無い方が良いでしょう。また最後の7ページで、不明水の対策のところですが、「目的として」と、次の2行下のところに「不明水への対策として」と、「として」が続くので、間違っはおりませんが日本語的に、可能でしたらどちらかを修正していただければと思います。

会長

次に、次第2「その他」について事務局から説明をお願いいたします。

事務局から「その他」について説明

会長

ただいまの事務局の説明について、何かご質問等おありでしょうか。

(質問なし)

それでは他に無いようですので、次第2「その他」は終わらせていただきます。その他、委員の皆様方から何かございますでしょうか。

(意見なし)

皆様には、会議の円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。事務局にお返しいたします。

事務局

議長ありがとうございました。

皆様につきましても貴重なご意見ありがとうございました。

では、以上をもちまして、令和3年度第2回平塚市下水道運営審議会を終了させていただきたいと思えます。本日はお忙しいところありがとうございました。